



AGULI

Aoyama Gakuin University Library Information

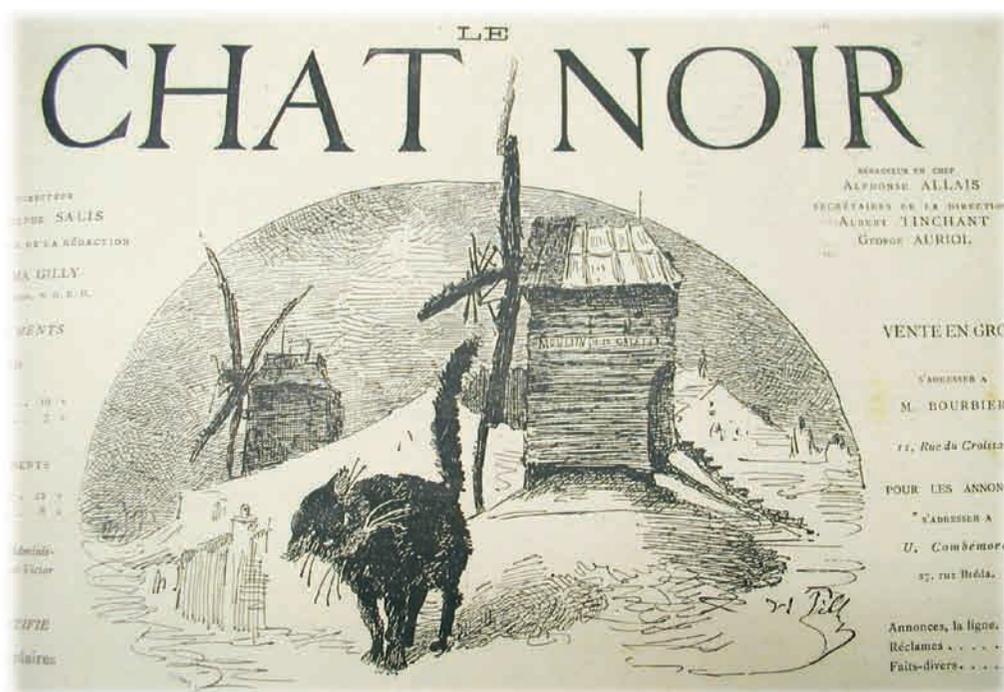
青山学院大学図書館報

特集 卒論・レポート必勝法 Part3

No.74

<http://www.agulin.aoyama.ac.jp/>

July 1, 2006



Le Chat Noir (ル・シャ・ノワール)

目次

巻頭エッセイ	
世界最大の学術図書館： ハーバード・ライブラリー・システム	
..... 田中 隆雄	2
特集「卒論・レポート必勝法 Part 3」	4～11
卒論・レポートのためのデータベース紹介	12
お薦めの図書	14
展示資料紹介	
Le Chat Noir	15
図書館広報板	16

特集「卒論・レポート必勝法 Part3」

いかにして自分の興味関心を 論文へと変換するか	今井 重孝	4
まずは基本的な形式を踏まえる	松尾 孝一	5
法学部生の卒論	江泉 芳信	6
逆三角形の法則	土橋 治子	7
卒論を書くのは何のため？	戸堂 康之	8
文章を書くことにあらず	加賀山浩司	9
アンチ「必勝法」という必勝法	石神 輝雄	10
図書館を知り、己を知れば 百戦殆うからず	柴田 裕輔	11

経営学部長 田中隆雄
TANAKA Takao

今年の始めに、久しぶりにハーバード大学を訪れた。1979年にビジネス・スクールに留学して以来、折をみて何度も訪れている。研究上の仕事を終えた後、旧知のダター教授の研究室に立ち寄り、共通の友人の消息や家族のことなどよもやま話にしばし花を咲かせた。私の専門領域（管理会計）で花形スターとして活躍しているカプラン教授も今年の3月で引退するといことで一抹の寂しさを感じる。

ハーバード・ビジネス・スクールは文字通り全米ナンバーワンのビジネス・スクールである。MBAの学生は1学年約1,000名であり、質量ともに他のビジネス・スクールを大きく凌駕している。卒業生で有力企業の社長やエグゼクティブになっている人が多いので、寄附も潤沢で、訪れるごとに新しい建物が建てられたり、大規模なリノベーションが行われており、施設も教授の陣容もますます充実している。

私がここに留学した理由は、当時私が取り組んでいたデュポン社の歴史研究で経営史学の泰斗アルフレッド・チャンドラー教授の指導を得るためである。しかしながら、来てみて驚いたのは、ビジネス・スクールの専用図書館であるベーカー・ライブラリーの充実ぶりである。ヘンリー・メトカルフやハミルトン・チャーチなどによって19世紀末から20世紀初頭に書かれた原価計算に関連する書物で、日本では絶対に手にすることが出来な

いような古い文献がまるでテキスト・ブックのように何気なく書架に配架されているのである。

私の研究に必要な文献・資料は主としてベーカー・ライブラリーに所蔵されているのであるが、アメリカ史や経済学の文献はハーバード大学の中央図書館とも言うべきワイドナー・ライブラリーに所蔵されている。ワイドナー・ライブラリーが改装されたというので、どうなったか胸をわくわくさせながらチャールス・リバーを渡ってハーバード・ヤードに向かった。受付で校友であると名乗ると、データ・ベースで私の氏名を確認し、すぐに入館証を発行してくれた。

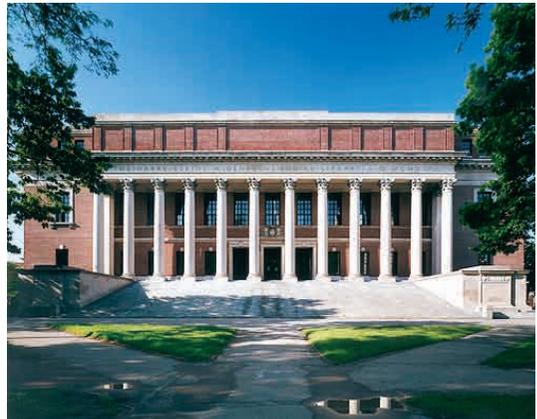
ワイドナー・ライブラリーは基本的にはハーバード・カレッジの図書館であるが、大小90の図書館から構成される世界最大の学術図書館ハーバード大学図書館システムの管理中枢機能をも担っている。ビジネス・スクールと同様に医学大学院、法学大学院、神学大学院なども独自の専門図書館を持っている。ハーバード大学のメイン・キャンパスであるケンブリッジ地区の主な図書館だけでも約40ある。これらの図書館が所蔵する図書はなんと1,500万冊、写真800万枚、マニュスク립ト数千万枚である。近年、雑誌や資料のデジタル化が進んでいるが、ハーバードが所蔵する電子ジャーナルは2万タイトル、電子モノグラフは25万点に上っている。これらの学

術資源の利用は過去5年間のうちに3倍に増加し、年間300万件以上になっている。

ハーバード大学の膨大なコレクションは、1638年に創立された時の僅か400冊の蔵書から築き上げられ、ジョン・ハンコックやトーマス・ホリス等の寄附金により1841年には41,000冊に増加し、それらを所蔵するためにゴア・ホールが建設された。20世紀の初頭、クーリッジ学長のイニシヤティブによりタイタニック号の沈没で命を失った卒業生で熱心な集書家ヘンリー・ワイドナーの稀覯本の所蔵館としてワイドナー・ライブラリーが建設され今日に至っている。

ワイドナー・ライブラリーは1999年から5年間かけて全面的に改装され、照明、エアコン、防火、ネットワークなどの機能も伝統的なデザインを保存しつつ一新された。この大工事は図書館の日常業務を維持しつつ進められたので、5年という長い期間を費やすことになった。かつては迷路のように複雑になっていた書庫も、改装のおかげで整然と整えられ、分類番号を手がかりに700万冊の中から、めざす文献を容易に見つけ出すことが出来る。

アメリカの大学図書館はたいていの場合、教員だけでなく学部学生も書庫に入って自分で文献を取り出すことが出来る。つまり、すべての本が開架式になっている。ハーバードももちろんそうになっており、稀覯本以外は、自由に手にとってみる事ができる。書棚の脇に、照明付きのキャレルが置いてあり、依頼すれば数ヶ月にわたって個人の専用として使用することが出来る。キャレルに置いてある本は、用済みになるまでキープすることができる。書庫から閲覧室まで自由に本を持



ワイドナー・ライブラリー

ち出すこともできるし、退館するときは閲覧室にそのまま本を置いておけば、司書やアルバイトの学生が書庫にもどしてくれる。ワイドナー・ライブラリーだけで、毎日300人の人たちが閲覧者のためのサービスに従事している。

ワイドナー・ライブラリーの開館時間は月曜日から木曜日が9:00am~10:00pm、金曜日は9:00am~7:00pm、土曜日は9:00am~5:00pm、日曜日は正午~8:00pmである。アメリカの学生は金曜日の夜からリフレッシュし、日曜の午後から授業の準備にかかるので、このような開館時間になっている。大学によっては、コンピュータ室などはカード・キーで24時間使用可能になっているところも珍しくない。

ハーバード大学は学部学生はハーバード・カレッジにいてだけで彼らの専攻はArts and Scienceであり、日本流に言えば文理学部にあたる。ハーバード全体では学部生よりも大学院生が多く、いわゆる大学院大学である。授業料をはじめ彼等の条件はかなり違うとはいえ、日本の学生も恵まれた条件に置かれれば知的好奇心が高まり、勉学の意欲も自然と湧いてくるのではないだろうか。

(経営学部教授 管理会計論)

いかにして自分の興味関心を 論文へと変換するか

今井重孝

IMAI Shigetaka

学問的な論文・レポートには、学問分野によって違いはあるが、それぞれの分野での論文作法が存在している。従って、自分の属する学部、学科などの専門領域の論文・レポートの作法をまずは、わきまえる必要がある。それを知る手っ取り早い方法は優れた先輩の論文・レポートを読むことであるが、自分の扱いたいテーマに近い分野を研究している先生に相談することも大切である。指導教員が決まっていれば、指導教員に、論文の条件を指導してもらうのがよい。自分で、そうした作法を知りたいのであれば、自分のテーマに近い分野の学術誌を探すことである。その分野で代表的な学術雑誌が判明すれば、そこに掲載されている論文をモデルにして論文の作法を学ぶのが良い。

枚数の多い卒業論文の場合には、全体のまとめ方が、雑誌論文とは異なるので、自分の専門領域の修士論文を読んでみることをお勧めする。修士論文は、大学図書館で管理しているはずなので、自分のテーマに比較的近い修士論文を探して読んでみるのがよいであろう。あるいは、修士課程に進学している先輩にアドバイスをもらうのもよいだろう。

さて、論文の作法についての理解を深めるためにも、自分が論文・レポートで扱うテーマをどうやって決めるのが、問題となる。「問題が正しく立てられれば、問題は半ば解決されている」ともいわれる。探求テーマの設定は、非常に大切なのだ。

特に、これとって、どうしても調べたい

テーマがない場合には、先ほどの学術誌の論文に目を通して、何が当該の学問分野で問題になっているかを知り、そのテーマを取り上げるのがいいかもしれない。学術誌の最新号の論文であれば、それまでの研究結果がフォローされており、どこまでがわかっているかがわかり、読むべき文献もその論文の注を手がかりに探っていくことができるからである。これなら、論文は書きやすい。

問題は、自分のやりたいテーマがあるけれども、一つに絞れなかったり、どのように論文にまとめていいかわからない場合である。この場合には、自分のやりたいテーマを論文テーマになるまで絞る必要がある。これは、指導教員と相談したほうが良い。絞る場合に、なるべく、自分の関心とずれないように、しかし論文の作法にふさわしい形に設定することが大切である。とにかく、大きなテーマや、難しいテーマ、いままで誰も研究していないテーマなどは卒業論で扱うことはできない。1年間で、調べられる見込みのあるテーマへと変換する必要がある。

論文を書く学年になる前から、常に、講義を聴いたり、本を読んだり、雑誌を読んだりしたときなど、自分の関心を確認し、それを、調べてみる習慣をつけることが、卒業論文をスムーズに決め、絞っていく際に大いに役に立つと思われる。何事も普段の努力がものをいうものなのだ。

(文学部教授 教育社会学・比較教育学)

まずは形式面のルールを守る

松尾孝一

MATSUO Koichi



卒業論文やレポートを作成する場合にまず留意すべきことは、内容以前に表記上の正しい形式を守ることであろう。具体的には、文体、用字用語、句読点、仮名遣い、段落設定などに関して、フォーマルな文章としての一般的な形式に沿った書き方をすべきであるということである。こうした表記形式上の正確さを守るためには、(表記形式についての一般的な知識はすでに習得しているとして) これらについて十分注意しながら書くことはもちろん、一通り書き終えた段階で、紙に印字したもの(ワープロ書きの場合)を念入りに読み直すことが必要であろう。

もちろん、学術的な論文を書く場合には、さらに学術論文特有の技術的なルールに従って書く必要がある。このルールについては、学術論文の書き方に関する入門書や、自分が専攻している分野の専門書・論文を参照することなどを通じて習得していただきたい。そして、このレベルの知識を身につけることが、大学段階での重要な学習上の課題でもある。

さて次に、このような形式面の条件をクリアしたとして、内容的にもすぐれた論文を書くためにはどのようなことに留意すればよいのであろうか。もちろん、何をもって「すぐれた論文」とみなすかは難しい問題であるし、その基準は学問分野によっても若干異なるのだろうが、その主な柱を内容の論理的首尾一貫性や学術的貢献性と一応考えるならば、私は以下のようなことを心がけながら論文を書くようにしている。

まず論理的首尾一貫性を確保するために、

例えばほぼ最後まで書き進んで論文の全体像がはっきりしてきた段階で、冒頭の序論部分で設定した課題と最後の結論部分とのすりあわせを行い、両者がうまくかみ合うように調整を行うようにしている。時には、結論に応じて冒頭で設定した課題の修正を行うこともある。これは一見転倒した作業のようにも思えるが、この作業を通じて論文の論理的首尾一貫性が確保されるし、自分の問題意識のあいまいさや課題設定の恣意性も克服されるのではないかと思っている。

また、学術的に有意義な論文を書くためには、取り扱うテーマに関しての先行研究の水準をよく把握することが重要である。そのためには、先行研究を検討しそれらで主張されている事柄を整理する作業が必要となる。その上で、学術的貢献性のある論文に仕上げるためには、先行研究の水準をどこか一部分だけでも超えることが必要であるし、私自身そのことを意識しながら論文を書くようにしている。

もちろん現実には、学部生の段階でプロの研究の論文に匹敵するような論文を書くことは極めて難しい。しかし、以上述べた事項のうち、形式面の正確さと論理的首尾一貫性については、学部生のレポートでさえも要求されるものであろう。また、自分の論文が主観的なエッセイ風のものに流れてしまわないためにも、学術的に有意義な論文としての上記の要件についても、心の隅には置きながら論文を書いていく必要があると思う。

(経済学部助教授 社会政策・労働問題)



法学部生の卒論

江 泉 芳 信
EIZUMI Yoshinobu

卒業論文を書くにあたって法学部生が考えておくべき事項を、教師の立場からふれてみたい。

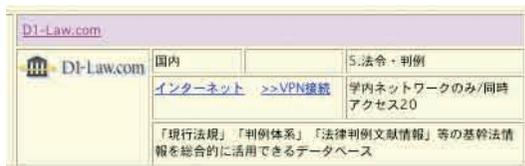
卒業論文(卒論)の具体的内容の設定については、一人ひとりの研究対象、問題関心が異なることから一概にいうことはできない。しかし、卒論を4年間の学生生活のしめくくりとして考える限り、テーマは最も関心を持って勉強した問題を取り上げるのが一般的だろう。興味をもった問題については、勉強の過程で知ることになったキーワードをいくつかあげることができるだろう。また、基本書を開けば、そのテーマについての説明にも見つけ出すことになるだろう。基本書については、図書館をたずねて書棚で実物を見るのがよい。さらに、これらの基本書の最新版が出ていないか、出版社のホームページを通じて調べてみることも必要である。

次は、ここからテーマをさらに深化させることである。法律の難しさの一つに、専門書の記述、法律の条文は抽象的な表現がとられるために、具体的な意味内容が正確に理解できないとか、誤解を生じさせてしまうということがある。それを避けるためには、取り上げようとするテーマを扱った判例を調査するのがよい。その際には、図書館ホームページの蔵書検索(OPAC)を利用することをすすめたい。

また、判例を調査するには、同じく図書館のホームページから法令・判例検索データベースの「リーガルベース」に入るのもよい。

使い方を覚えれば、効率的な判例調査が

できる。また、「裁判所ホームページ」(www.courts.go.jp)から、「裁判例情報」で判例を検索することも心がけたい。



D1-Law.comは、判例や文献等の検索に便利である。図書館ホームページのデータベース一覧から入ることができる。適切な検索語を入力すれば、「法律判例文献情報」、「判例体系」、「現行法規」の中から簡単に必要な情報を入手できるので積極的に利用したい。

なお、比較法的な視点を取り入れることは論文に深みを加えるので、やはり図書館で契約しているLexisNexisから最新のアメリカ法のデータベースを利用することもすすめたい。

いよいよ執筆するとなったときには、パソコンを積極的に利用すべきである。マイクロソフトのワードには「アウトライン機能」がある。これを使って、論文の骨格を作るのである。アウトライン表示にすると、「印刷レイアウト表示」とは異なり、階層をつくって論文の「章」、「節」、「項」という順に構成していくことができるようになる。これで、論文の全体的な骨組みを考えるのである。

最後は、完成した論文を1週間ほどねかしておいて改めて読み直す。すると、足りないところや余分な記述が発見できるので、これを修正してゆく。時間があれば、友人に読んでもらって批評してもらうのもよいだろう。

(法学部教授 国際私法)

逆三角形の法則

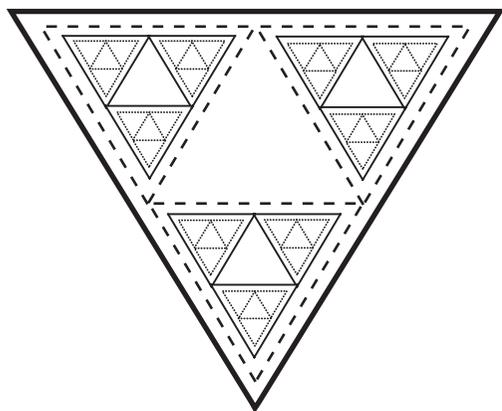
土橋 治子

TSUCHIHASHI Haruko



卒論やレポートを読んでいると、読むのに時間がかかるものとそうでないものがある。時間がかかるのは、内容それ自体が難しいという場合もあるが、大抵は主張内容に一貫性がなかったり、その内容を伝えきれていない場合が多い。「さっきはこう言ってなかったっけ?」、「なぜこのような主張になるのだろうか?」などと疑問に思いながら読む論文ほど時間がかかるものはない。(論文内容はともかく)このような論文は伝えたい内容が十分に伝えられていないという意味で、良い論文とはいえないであろう。読み手に優しい論文。それを書くための工夫をひとつご紹介しよう。

イメージしてほしいのは、下図のような「逆三角形」の集合体である。



この集合体は、4種類の逆三角形によって構成されている。もっとも小さな逆三角形が「段落」であり、その大きさが大きくなるにつれて「節」、「章」となっていく。そして一番大きな逆三角形がこの論文の「全体像」となる。この図が意味するところは以下の3つである。

第1は、段落、節、章それぞれにひとつの

(小さな)結論があることである。下側に向かうほど収束していく逆三角形によって表現している理由はここにある。

第2は、それぞれの逆三角形が接点を持っていることからわかるように、段落同士、節同士、章同士、さらにはこれら3つが繋がりを持たなければならないという点である。

そして第3は、(小さな)結論の積み重ねが、最終的に1つの結論(もっとも、大きな逆三角形)を導いているという点である。

論文は単なる文章の羅列ではない。そこでは厳密な論理展開が求められる。この点を考慮すれば、こうした「逆三角形の法則」を意識すること自体、改めて言うことではないかもしれない。しかしながら、実際に論文を書きしてみると、綺麗な逆三角形を作り上げるのは意外と難しい。われわれ大学教員ですら悪戦苦闘するのだから、学生が論文を書くとなるとなおさらであろう。

世の中には、論文の書き方に関する書物が山ほど売られている。論文とは何か、論文を書く際の最低限の作法など、こうした書籍から学ぶことは多い。だがその前に、この「逆三角形の法則」を意識することをお勧めしたい。論文を書くということは、書き手の主張内容が伝えられてはじめて意味があると思うからである。もちろんこれは、論文執筆の最初のステップにすぎない。論文としての価値を上げていくためには、論文内容に関する次のステップが待っている。

(経営学部助教授 マーケティング論・消費者行動論・製品戦略論)



卒論を書くのは何のため？

戸 堂 康 之
TODO Yasuyuki

将来研究者になるわけではない大半の学部学生にとって、卒論を書く意義はなんでしょう。私は、(1) アイデアを創出する能力を養うこと、(2) 論理的な思考回路を育成し、それを文章化する能力を養うこと、(3) 情報収集能力を高めることの3点であると考えます。卒論によって培われたこれらの能力はどのような職業についても活用できるものであり、学生の皆さんにはぜひ卒論という機会を利用してこれらの能力を最大限に高めた上で社会へ巣立って行っていただきたいと切望します。(なお、本稿は社会科学系の学部生を念頭に書かれていますが、本稿の主張の核の部分は全ての学部の学生に適用できるはずです。)

したがって、卒論を書く上で次の3点が重要です。まず、卒論は自分の独自のアイデアの詰まったものでなければなりません。独自性は論文の主張そのものにあってもよいし、主張を裏付けるための事実・データやその分析手法にあってもかまいません。学部生のレベルで独自性を持つことは難しいですが、その困難を越えて自分独自のアイデアをひねり出すことに価値があるのです。逆に言えば、既存の研究の成果をまとめただけの卒論は書く意味がありません。

次に、卒論は自分の主張が論理的に文章で展開されていなければなりません。そのためには、卒論を構想する段階でどのような論理で主張を展開し、そのためにはどのような事実・データを集める必要があるのかを明確にしておくことが大切です。さらに、論理的な文章を書くためには校正を重ねることが不可

欠です。一度書き上げた文章を何度も何度も繰り返し読んで、文章と文章、段落と段落、節と節が論理的に接続されているように改訂を加えてください。友人同士で卒論を読み合っていてわかりにくい箇所を指摘しあったり、提出前に指導教員に一読してもらったりすることは文章力の向上に大いに役に立ちます。なお、学部生の力量と卒論の分量を考えれば、このような改訂作業には少なくとも2週間をかける必要があると考えます。締め切り直前にやっと論文が最後まで書けたというのは言語道断です。

最後に、自分の主張を事実・データで裏付けるために、図書館やインターネットでできる限りの情報収集をすべきです。ある主張をするのに、誰も利用してこなかった事実・データを掘り起こして使うことができればそれは意義深いことですし、学部生でも十分に可能なことでしょう。さらには、アンケート調査やフィールドワーク(興味の対象、例えば企業や農村などを直接訪れて調査するなど)を小規模でも行えば、それだけでも自分の知識・能力を飛躍的に高めることができるでしょう。

以上のような苦勞をして卒論を書き上げれば、きれいに綴じられた卒論を前にして、これまで味わったことのないような至福の充実感が味わえるはず。この充実感を味わい、かつ社会に必要な能力を手に入れるために、ぜひ卒論に積極的に取り組んでみることをお勧めします。

(国際政治経済学部助教授 国際経済学)

文章は書くことにあらず

加賀山 浩司

KAGAYAMA Koji



私は2006年3月に青山学院大学理工学研究科理工学専攻機械創造コースを修了したものです。私はレポートや卒論の制作に対して以下の2点が重要だと感じています。

まず、1点目は「いかに読み手の注意を引くか」であり、2点目は「いい文章は書くことにあらず」です。

まず、1点目の「いかに読み手の注意を引くか」についてです。論文検索を行ったことがある方はわかると思いますが、検索を行うと表示される情報は「論文題目」、「著者」、「雑誌名」などがあります。しかし、論文の情報を物語るのは「要旨」です。論文検索を行ったことのない方には、本屋で見かける文庫本の帯や背表紙を例にしたほうがわかりやすいかもしれません。私もよく本屋へ行くのですが、本を買う決め手は帯や背表紙なのです。ということは、背表紙や帯のインパクトが薄いものは見向きもされないということです。論文においても同様であり、要旨にインパクトがなければ読まれることは難しいのです。論文は読まれて初めて論文となり、読まれなければただの紙です。だからこそ、文章の書き始めこそ一番注意を払うべきなのです。日本人は「起承転結」ということを頭に叩き込まれていますが、これは小説の世界の話であり、学術文章には通用しないことを理解するべきです。要旨に明確な内容とアウトラインを引くことで、読み手の注意と読み手を上手に誘導することができます。

次に、「いい文章は書くことにあらず」は、学部4年から修了にかけて常に感じていたことです。いい文章を書ける人間がいいレポートや論文を制作できるとは限りません。いかに優れた文才を持ち合わせていて、それらしい文章が書けたとしても、それは持論の集合体

でしかありません。究極的にいうと学術的には意味がありません。確かに文才というのは必要なのですが、それ以上に一番重要なことは、自らが取り組み、そして得られた事実なのです。学生時代に何本も他学生の書いたレポートや抄録などを見ましたが、その多くは読み終わった後に私に疑問符を投げかけるものでした。それらの多くは、文章中に「～だと思われる」「～と考えられる」という表現が用いられ、確かな結果が記載されていないのです。実際に、私もこのような文章を書いたことがあります。内容のない文章を書いていると、恥ずかしいとか情けないという気持ちしか浮かんできませんでした。ただ、必死になって取り組み、やっと結果が得られたときや開発を行ったときは誇らしく、すぐにでも誰かに伝えたいと思いました。そうやって生まれた論文には意味があるのだと思います。レポートや論文を書くことは、文字を並べれば誰にでも書けるのも事実ですが、それは紙でしかなく、作文でしかないことを忘れないでほしいと思います。取り組む姿勢こそ一番大切なことなのです。

以上が、私が6年間という学生生活を終えて感じたことです。文章とは、文字通り文を書くことであり、それは力を持っています。社会に出ればわかるのですが、口頭で伝えられたものには意味がなく、文章化することで意味を持ちます。契約書などを書き間違えるということは会社の存続にかかわることなのです。あなたがたの文章も過去に残るのです。文章中に断言するということは責任を伴います。いい文章というのは恥じない文章だと思っています。自信を持って世に文章を送り出してほしいというのが私の願いです。

(2006年理工学研究科理工学専攻機械創造コース修了)



アンチ「必勝法」という必勝法

石 神 輝 雄
ISHIGAMI Teruo

1. 「必勝法」などない

特集のテーマは卒論・レポート必勝法です。しかし必勝法が短時間で高得点をとる方法という意味ならば「必勝法」などないと思います。社会科学を専攻するものにとって必勝法とは、時間をかけて学び考察しさらに学ぶというサイクルの中にあると思うからです。また図書館や検索システムの活用法といったアドバイスもツールであって必勝法ではないでしょう。では何を書くべきでしょうか。幸い私はただの卒業生です。この立場を活用し在学中に心掛けていたことを書いてみたいと思います。

2. レポート作成の心がけ

① 講師の研究—レポート作成は共同作業—

ある科目でAAをとったレポートを同じ専攻の他講師にそのまま提出したとします。レポートは再びAAを獲得できるでしょうか。その確率は低いと思います。研究者は各自学究への異なるアプローチを有しているからです。これを把握するために講師の著作はテーマ決めの前に読み研究すべきといえます。レポート作成は学生の個人作業ではなく、講義というプロセスを通じた講師との共同作業だからです。私達はヒヨッコなのですから、まずは講師と同じ土俵に努力して上がらなければなりません。

② 徹底的な多読—未読文献は不安要因—

上記作業の後本格的なレポート作成への作業が始まります。ただここからも関連する文献の多読をするのみです。字面を追って「読んだ」とするのではなく、「理解」する作業です。論文を理解するためには多くの文献にあたらねばなりません。結局多読こそが一番ではな

いでしょうか。ではどこまでこの作業を継続するかですが、未読文献の存在を成功への不安要因だと認識するまでだと思います。提出後に良い論文に出会い「これを読んでいたらもっといいレポートが書けていたのに」と後悔しないための努力が必要だと思います。

③ 授業への積極的参加—毎週の指導の重要性—

レポート作成は「講義というプロセスを通じた講師との共同作業」と書きました。つまり講義内容自体が成功への重要な鍵だといえます。たとえば議論が自分の書きたい分野から徐々に遠ざかることもあるはずですが。議論や授業の方向性決定には積極的に関わらしましょう。欠席など論外です。授業がどのような形式であれ積極的に参加することが重要なのだと思います。そのためには膨大な事前準備が必要となるからです。積み上げの成果を授業で試し、そこで得た批判を基礎にさらに考察を進めればレポート作成に必ず生きてきます。毎週適切な批判や指導を受けることが大切なのだと思います。

3. おわりに

結局、必勝法は授業と多読を通じた日頃の努力の中にあるとしか思えません。今この特集を読んでいるあなた。「おわりに」にて恐縮ですが、私の下手なエッセイを読むよりもいい文献との出会いを探し、思考回路の開発に努め厳しい指導を受けましょう。重要なことはシステムの利用法や効率的学習法などではきかないはずですが。小手先の技術はこの作業の中できっと自然に身についてくるものだと思います。

(2006年国際政治経済学研究科国際政治学専攻修了)

「図書館を知り、己を知れば 百戦殆うからず」

柴田 裕輔

SHIBATA Yusuke



彼の孫子曰く「彼（敵）を知り己を知れば、百戦殆うからず」とのことである。私は、卒論・レポートを書くに当たっては、知の巨人である図書館といかに対峙すべきかという点が肝要であると考えている。良き卒論等の定義はさて置き、満足のゆく卒論等を書くには、図書館を使いこなさなくてはならない。それは、以下で述べる三点の論拠によるものである。因みに、百戦殆うからずとは、負けざるということであり、必勝ではないことを予めお断りしておきたい。

<的確な問題意識把握の為に>

図書館と対峙する一つ目の理由は、的確な問題意識の把握に努める為である。レポートと一口に言っても様々な形式が存在する。最も頭を悩ますのは、「～に関して興味のある点を調べて報告せよ」という、問題意識を設定しなくてはならないレポートであろう。レポートを書きなれていない場合、往々にして大テーマを取り上げたくなるものだが、それには時間的並びに能力的制約から手に余ることが多い。この点、図書館には膨大な先行研究が眠っており、それを丹念に調べることで、自分の手に負える範囲のテーマを見つけ出すことができる。ここでは、探す際の手順が極めて肝要である。まず、概論的な図書を探し、基礎的理解を行い、そこに掲げられている参考文献を引っ張り出す。それでも不足する部分を、雑誌論文で補うという順序である。雑誌論文は、小テーマに関して書かれており、レポートの題材と類似する点はあるが、基礎的理解の上に成り立つものであり、上記の順を踏むことが時間的なロス回避することに

もなる。雑誌論文の検索にも順序があり、まず国立国会図書館が提供するNDL-OPACの雑誌記事索引を用いるのがよい。これは、日本国内の主要雑誌を採録しており信頼が置けるものであり、これで不足する部分を個別のデータベースで補っても遅くはない。

<斬新なアイデアを発見する為に>

レポートと卒論の違いは、オリジナリティの有無であると私は考えている。オリジナリティを見出す為の最適の場所が、図書館1Fの新着図書コーナーである。ここには様々な分野の図書が並び、斜め読みしてみると思わぬ発見があることが多い。同時に、自らの無知をも明らかにしてくれるのであり、「己を知る」には最適な場所なのである。

<証拠を押さえる為に>

卒論・レポートを書くには、犯人捜しの証拠は不要であるが問題意識を解明する為の論拠が必要とされる。当然のことながら、図書館にはデータベースを始めとして年鑑や白書といった信頼の置ける論拠の素材が揃っており、それを活用しない手はない。

以上三点に亘って、駆け足で卒論・レポート作成に関する図書館活用法を述べてきた。しかし、この三点を実行するには、青学の図書館を頻繁に使うという前提条件を満たす必要がある。普段から知の巨人である図書館を使い、「図書館を知る」ことができれば、卒論・レポートは百戦殆うからずである。

(国際政治経済学研究科国際政治学専攻)

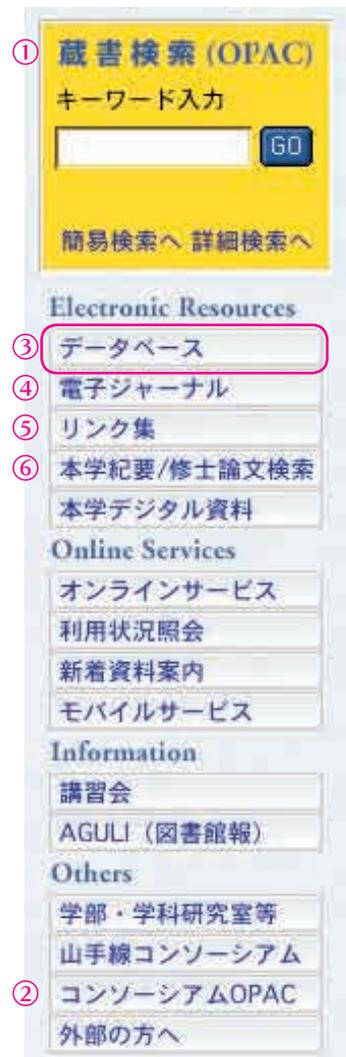
文献検索と入手のテクニック!

論文・レポート作成のための 情報検索入門!

論文・レポートを作成する際、そのテーマに関するすでに公表された論文・記事などの内容を踏まえて自説を展開する必要があります。先行論文や先行研究の学術的な情報を、図書館のデータベースを利用して入手しましょう。

◎図書館のホームページは左側がメニュー画面です。
*1)

このHPを使ってどんなデータベースが利用できるかをご紹介します。(メニューの番号で、どこからどのデータベースに入るか参照してください。実際に端末を操作しながら、目的にあったデータベースにアクセスし使いこなしましょう!)



*1) HPメニュー

図書・雑誌を探す

<国内>

まず、①本学のOPAC、次に②紹介状が不要で閲覧貸出可能なコンソーシアムOPACにアクセスしましょう。

①青山学院大学・青山学院女子短期大学図書館OPAC

②山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム

*加盟大学(青山学院、学習院、國學院、東洋、法政、明治、明治学院、立教)は本学の学生証で、試験期を除き、閲覧・貸出可能(原則として各大学の中央図書館の蔵書に限ります)

●目的の資料が見つからない場合、⑤のリンク集から全国の大学図書館等が所蔵する図書雑誌の総合目録データベースを検索しましょう。

⑤リンク集 → Weecat Plus (国立情報学研究所)

●特定の大学図書館OPAC、国立国会図書館OPACを検索することもできます。

⑤リンク集 → 図書館関連 →

日本国内の大学図書館関係WWWサーバー → 各大学図書館のOPAC

⑤リンク集 → NDL-OPAC (国立国会図書館)

*国内に所蔵のない洋書や雑誌論文は、図書館相互協力サービスILLで海外からも取寄せることができます(有料)。

<海外>

③データベース → OCLC FirstSearch WorldCat

雑誌論文を探す

どのような論文(主題・特定の著者・年代等)が必要なのか整理してから検索してみましょう。

<国内>

⑤リンク集 → GeNii → CiNii (NII論文情報ナビゲータ)

*学協会で発行された学術雑誌、大学等で発行された研究紀要を検索し、論文の本文を参照したり、引用文献情報をたどることができます。(全文表示の一部は代行検索)

*国立情報学研究所のGeNii(学術コンテンツ・ポータルサイト)にはCiNiiのほか、Weecat Plus、KAKEN、NII-DBRがあります。

⑤リンク集 → NDL-OPAC → 雑誌記事索引

*国立国会図書館の採録誌一覧にある雑誌に掲載された記事です。

③データベース → 日経BP記事検索サービス

*日経BP社のビジネス専門誌約40誌のバックナンバーの記事全文の検索と表示ができます。

海外

③データベース → Web of Science

*自然科学、社会科学、人文科学の重要度の高い学術論文雑誌を網羅した引用文献データベースです。

④電子ジャーナル → A to Z

*本学で契約している電子ジャーナルのタイトル一覧です。(抄録のみも含)

100種類以上のデータベース

◎③のデータベースをクリックすると、テーマ別で探せるメニューがあります。*2)

そこから、目的に合ったデータベースを探してみましょう。



*2) テーマ別一覧

* ()の数字は、テーマ別一覧のテーマの番号を示します

* アルファベット順の一覧もありますので、データベース名がわかっている場合はそこからお入りください。

* 右のデータベースはごく一部です。

【電子ジャーナル】

④の電子ジャーナルから入ります。

→ Blackwell Synergy

Blackwell社が刊行する人文科学、社会科学系雑誌約360タイトルがフルテキストで利用できます。

→ Springer LINK

Springer社が刊行する雑誌約1,090タイトルがフルテキストで利用できます。

→ JSTOR

人文科学を中心に15分野119タイトルの創刊号からフルテキスト利用できます。

→ Oxford Journals

米国のOxford University Pressが刊行する人文科学、社会科学、自然科学の幅広い分野の雑誌約160タイトルがフルテキストで利用できます。

→ ProQuest

*全文収録誌 約4,200タイトル
雑誌論文全文の印刷・Eメール送信可能です。

→ EBSCOhost

*全文収録誌 約2,900タイトル
雑誌論文全文の印刷・Eメール送信可能です。

国内

朝日新聞記事検索(聞蔵IIビジュアル)

DNA for Libraries (4)

朝日新聞の記事全文(1945-)

・人物データベース
・AERA1988年5月～
・週刊朝日2000年4月～

日経テレコン21 (4)

日本経済新聞社が提供している情報サービス
日経本紙・産業・金融・流通4紙の記事全文検索や企業・人事情報のデータベース

DI-Law.com (5)

「現行法規」「判例体系」「法律判例文献情報」等の基幹法情報を総合的に活用できるデータベース

eol ESPer (6.7)

上場企業約3,900社の企業財務情報データベース
有価証券報告書 1984～
財務データ 1989～

The New Grove Dictionary of Music and Musicians 2nd ed (8)

『新グローブ世界音楽大辞典』第2版
主要作曲家に関する新しい伝記的記述や、ポピュラー音楽の作曲家や演奏者に関する項目等が検索できる

JapanKnowledge (9.11)

新語や流行語を網羅した用語辞典、大型英和辞典、経済記事など、約30のコンテンツを一括検索できるデータベース

海外

SourceOECD (1.2.7)

OECDが出版している書籍、報告書、雑誌については1998年1月分から、統計類については1960年以降のデータを収録している
冊子の刊行よりも早くフルテキストを入手可能

LexisNexis at Lexis.com (2.4.5)

世界最大級の法律情報検索サービス
アメリカ(連邦・州)の判例、憲法、制定法、規則、法案、議会資料、行政資料のほか、ローレビュー、ニュース、ビジネス情報も含む

PsycINFO (2.10)

心理学、精神医学、行動科学関係の文献情報

The Times Digital Archive (4)

創刊から200年間の「ロンドン・タイムズ」全紙面を収録

完全フルテキストを検索・閲覧できる歴史アーカイブ

ICPSR Data-Archives (7)

アメリカ合衆国のミシガン大学が所蔵する、世界各国や国際組織から収集した社会科学に関する調査データ

(本館運用課参考係 内藤むつみ)

お薦めの図書

「ザ・ディベーター―自己責任時代の思考・表現技術」 茂木秀昭著

筑摩書房 2001 (ちくま新書) 青山本館 809.6/M2-1 相模原 809.6/M2-1

明治時代に福沢諭吉がスピーチを「演説」、ディベートを「討論」と訳して日本に紹介して以来、ディベート=討論・言い争いというイメージが強く、対立的に言葉で相手をやりこめる攻撃的な道具という誤解が根強くある。ディベートは討論のための術ではなく、むしろ論理的に思考し表現する技術であり、問題の発見から分析、解決策の提示という知的プロセスだという。企画立案能力、コミュニケーション能力などを高める訓練法として有効であることをわかりやすく解説している。



「あったかもしれない日本 幻の都市建築史」 橋爪紳也著

紀伊國屋書店 2005 青山本館 518.8/H6-2

明治、大正、昭和という歴史の中で幻に終わった都市計画を取り上げる、幻の建築史である。実現しなかった琵琶湖大運河、東京・月島を会場に計画された万国博覧会やアジア初となるオリピック……豊富な図版や資料とともに紹介されているので極めて具体的に想像することができ、その時代のエネルギーが実感できる。1996年、もし、世界都市博が開催されていたらお台場は?そんな空想が膨らむ一冊である。



「反」読書法」 山内昌之著

講談社 1997 (講談社現代新書) 青山本館 019.1/Y2-1 相模原 019.1/Y2-1

読書とは何だろうか?自らの視野を広げるため?刺激を受け、インスピレーションを得るため?本書は「見栄や義務感は読書の大敵、教養なんか気にしない」をモットーに「本選びのヒント」、「よく読むための技術」、「学生時代に何を読むか」について書かれた本である。「偏見は大敵」「批判的に読むこと」など、読む技術や本選びのポイントを示しながら、読書という行為の奥深い魅力と楽しみを見つかるヒントを提案しているので参考にして欲しい。



「知っておきたい情報モラルQ&A」 久保田裕、佐藤英雄著

岩波書店 2002 (岩波アクティブ新書) 青山本館 021.2/K4-2

ネット利用が一般化したことで個人でも簡単に情報発信が可能になり、写真やイラストを入れ、音楽を載せたりして魅力的なページを作成している大学生のサイトも増えてきた。そのようなホームページを作るときに著作権やプライバシーのことをきちんと知っていないと、思わぬトラブルを起こす可能性がある。本書は著作権などの情報モラルについて具体事例に即しQ&A方式で書かれたものである。情報化社会へ踏み出す際に必要なエチケットを身につけることは、これからの大学生活で大事になるであろう。



「雨の名前」 高橋順子文 佐藤秀明写真

小学館 2001 青山本館 451.6/T3-1 相模原 451.6/TA33A

狐雨、麦雨、涼雨、秋霖、時雨……雨の名前422語、雨の写真148点が紹介されている。雨が多い国であるが故、その雨を表現する名前も驚くほど数多い。詩人である著者の雨の詩とエッセーは35篇。次の雨の日は、この本を持ってどこかへ出かけてみたくなる。

姉妹編「風の名前」(小学館 2002)(青山 451.4/T2-1)は、誰にとっても忘れられないあの日の風を、また頬に感じるような一冊である。



「国家の品格」 藤原正彦著

新潮社 2005 (新潮新書) 青山本館 304/F29-1 相模原 304/F68K

昨年11月発行以来、たちまちベストセラーとなった。閉塞感漂う今日、国民は改めて国家に何かを期待しているのかもしれない。かくて著書はいう。日本は世界で唯一の「情緒と形の文明」だ。だが、戦後、欧米の合理精神、論理、自由、民主主義を導入し、日本らしさを失った。今、日本に必要なのは、論理より情緒、英語より国語、民主主義より武士道精神、経済大国より文化大国に目を向け、国家の品格を取り戻し、日本人としての誇りと自信を持つことだと説く。



(本館選書タスクフォース)

—19世紀末フランスジャポニズムの代表的週刊誌—

Le Chat Noir (ル・シャ・ノワール)

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ヨーロッパやアメリカでは日本ブームが巻き起こりました。

この時代のフランスも、普仏戦争後の荒廃から立ち直り、政治・経済もようやく安定し始め、大衆時代の幕開けとともに、文学・芸術が新たな方向へ多方面で開花して行きました。



世紀末のパリ、モンマルトルの文芸酒場
に集まった文人・芸術家たちによる、いわ
ゆるジャポニズムの運動の実態をつぶさ
に見て取ることができます。



本誌は、このような時代のうねりの中で、パリ・モンマルトルの文芸酒場「ル・シャ・ノワール (LeChatNoir)」“黒猫”に因んで名づけられ、大衆的なものと高踏的なものとを繋ぐ役割を果たした、際だって個性的な文芸週刊誌として知られています。

文芸酒場“黒猫”のオーナーであるロドルフ・サリスをパトロンに、詩人エミール・グードーが編集長となって発刊され、主要な寄稿者にはアルベール・サマン、モレアス、リシュパン、ヴェルレーヌ、マラルメ、ゾラ、モーパッサン、そして挿絵はスタンラン、ファラン、リヴィエールなどの第一線で活躍した逸材が協力しています。



日仏文化交流観点から、きわめて高い資料的な価値を有しているといえるでしょう。

展示:6月～8月、大学図書館本館

参考文献

「平成17年度研究設備整備計画調書」

「代理店カタログ」

(本館運用課参考係担当)

図書館広報板

本館

7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

通常開館 月～金 9:00～21:40 土 9:00～21:00

開館時間 月～金 9:00～19:00

休日開館、夏期休業中の土曜日 12:00～19:00

休館日

※オープンキャンパス
7/23 10:00～19:00
9/17 11:00～16:00

●試験期貸出……7/4～7/23

冊数：通常通り
貸出期間：1週間(学部生・短大生)
延長期間：1週間(全利用者)
※上記期間、卒業生は貸出できません。

●夏期特別貸出……7/24～9/15

冊数：10冊
返却期限日：9/29(金)

万代記念図書館

7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

通常開館 月～金 9:00～20:00 土 9:00～17:00

開館時間 月～金 9:00～16:00 土 12:00～16:00

開館時間 月～金 9:00～17:00 土 9:00～13:00

休日開館 10:00～17:00

休館日

●試験期貸出……7/4～7/23

冊数：通常通り
貸出期間：1週間(学部生・短大生)
延長期間：1週間(全利用者)
※上記期間、卒業生は貸出できません。

●夏期特別貸出……7/24～9/15

冊数：10冊
返却期限日：9/29(金)

編集後記

前回(第73号)からフルカラーとなり、ますます充実した図書館報「AGULI」。第74号の特集は好評の「卒論・レポート必勝法Part3」です。また、これに関連し、内容の一部に卒論・レポートのためのデータベースの利用方法を紹介しています。是非本号を手にとり今後の教育研究及び学術情報の収集に大いに役立ててください。
(大学図書館広報担当 熱田智之)

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報「AGULI」第74号 2006年7月1日発行

編集 青山学院大学図書館編集委員会・大学図書館広報担当 TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472

発行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 http://www.agulin.aoyama.ac.jp/